

1 景観形成区域に関する協議の場

＜これまで＞

坂口地区定例会

- ・ 坂口地区の全世帯が出席する定例会
- ・ 月 1 回（基本的に第一日曜日）開催
- ・ これまでに数回定例会に参加し、坂口地区が必要とする取組について共に考えていくことを目指してきた。

＜今後＞

- ①地区の若者 4 人と協議 ⇒ ②①で協議したことを定例会におろす
（いきなり定例会で話し合うのは難しいとの申し出あり）

2 坂口地区の概要

- ・ 世帯数：12 世帯（うち 3 世帯は高齢者の独居世帯）
- ・ 地区に就学児童はおらず、40～50 代が一番若い世代。
- ・ 地区に関することは月 1 回開催する定例会で決めている。開催定例会の出席率が高い。
- ・ 地区で栽培されている作物：米，茶，四方竹，ほうれん草等
- ・ 戦後植林された人工林の影響で日照の阻害や山の貯水力の低下といった悪影響が生じている。
- ・ 高齢化によるマンパワー不足
- ・ 地区内の草刈りは、ほとんど個人で行っている。（年に数回の愛護作業でも実施）

3 コミュニティ計画

＜鏡コミュニティ計画＞

- ・ 平成 22 年策定
- ・ 策定後、鏡コミュニティ計画推進会議が計画を推進していたが、当該会議は平成 26 年に休会、平成 28 年に解散した。
- ・ 鏡コミュニティ計画推進会議の一部の事業（広報誌「かがみづくり」の発行等）を鏡地域連携協議会が引き継いでいる。

4 キーパーソンとの協議

（1）令和元年 12 月 11 日（場所：鏡文化ステーション R I O）

キーパーソン 2 名と今後の景観形成区域に係る取組について協議を行った。

① A さん（70～80 代）の意見

- ・ 坂口が何かに指定されるようなことは今後ないだろう。これが最後のチャンスである。
- ・ 数年前から若い人が地区をまとめ始めて頼もしく思っている。地区の若者 4 人が「やる」と言えば、他の者はみんな付いていく。
- ・ 高齢の女性たちも元気で、持ち回りでこんにゃくを作って楽しんでいる。
- ・ 年長者の中には、外部の人との交流をあまり好まない人もいるかもしれない。
- ・ 雑木を 1 本切れば、そこから光が差し込んで、地域が明るくなる。

② B さん（50 代）の意見

- ・ 景観形成区域の取組の行きつく先が見えない。
- ・ 景観形成区域に指定されても、その後管理ができなくなる可能性がある。
- ・ 坂口の住民から何か取組の提案をすることは、そういった経験がないため難しい。
- ・ 景観形成区域の取組によって、数年間は地域が良い方向に動くかもしれないが、その先の地域の現状は厳しいのではないかと。先のビジョンが見えないため、なかなか景観形成区域の取組に前向きなれない。

③ 2 人の共通意見

- ・ 久重地域のように、住民が自発的にイベントを開催したりしているところは盛り上がるだろうが、坂口地区ではそういったことは難しい。

（2）令和 2 年 1 月 27 日（場所：坂口地区公民館）

キーパーソン B さんと協議を行った。以下、B さんの話。

① 景観形成区域の取組に前向きになれない理由

＜住民が重視する地域課題＞

- ・ 山の手入れ不足が原因で下層植生が生えず、雨が降ると土砂が流れてしまう。最近では、豪雨により集落が孤立してしまうことが増えた。そういった周辺の様子から、土砂災害に対する危機感を抱いている。
- ・ 県からも、地域が土砂災害特別警戒区域に当たることや将来的な住居の移転を勧めるような話があった。
- ・ 危険性を考慮して、親が亡くなった後は坂口に住むつもりはない。
- ・ 以前は、近隣の 3 地区合同で夏祭りを開催していたが、下流から子供たちに来てもらっても、万が一土砂崩れが起こって子供たちが帰れなくなるとは困るので開催しなくなった。
- ・ 土砂災害の危険があり、これから人が住む見込みのない地域を指定することに疑問を抱いている。
- ・ 20 年前に話があれば前向きに取組めたかもしれないが、現在の地域の状況では前向きになれない。
- ・ 地域の課題を解決するために一番効果があることは、「木が売れる」こと。
- ・ 鏡川の水質を保全したいのなら、景観を守るよりも山の整備をすべき。

＜地域の活力低下＞

- ・ 10 年後には、坂口の人口は半分くらいになるかもしれないと地域で話している。
- ・ 中山間地域直接支払制度の第 5 期の募集が始まろうとしているが、5 年後まで続けられるかわからないという理由で次は入らないという人もいる。地域は数年先すらどうなっているかわからない状態である。
- ・ 景観形成区域にただ指定するだけというのなら構わないが、それに伴って何かをしなくてはならないとなると負担になり続けられない。
- ・ 坂口に住んでいる人は、平日は会社で仕事をして、休日は畑仕事をしているため休みがない。
- ・ 1 月の定例会で景観形成区域について話をしたが、積極的に賛成する者はいなかった。

② 地区外からの来訪者について

- ・ 市街地に住んでいる坂口出身者（60 代）が畑をしに通っている。
- ・ 焼野森林公園にキャンプをするために訪れる人がいる。
- ・ 農作業をやりたいという人がいれば、自分の畑を使ってもらってもいいという気持ちはある。

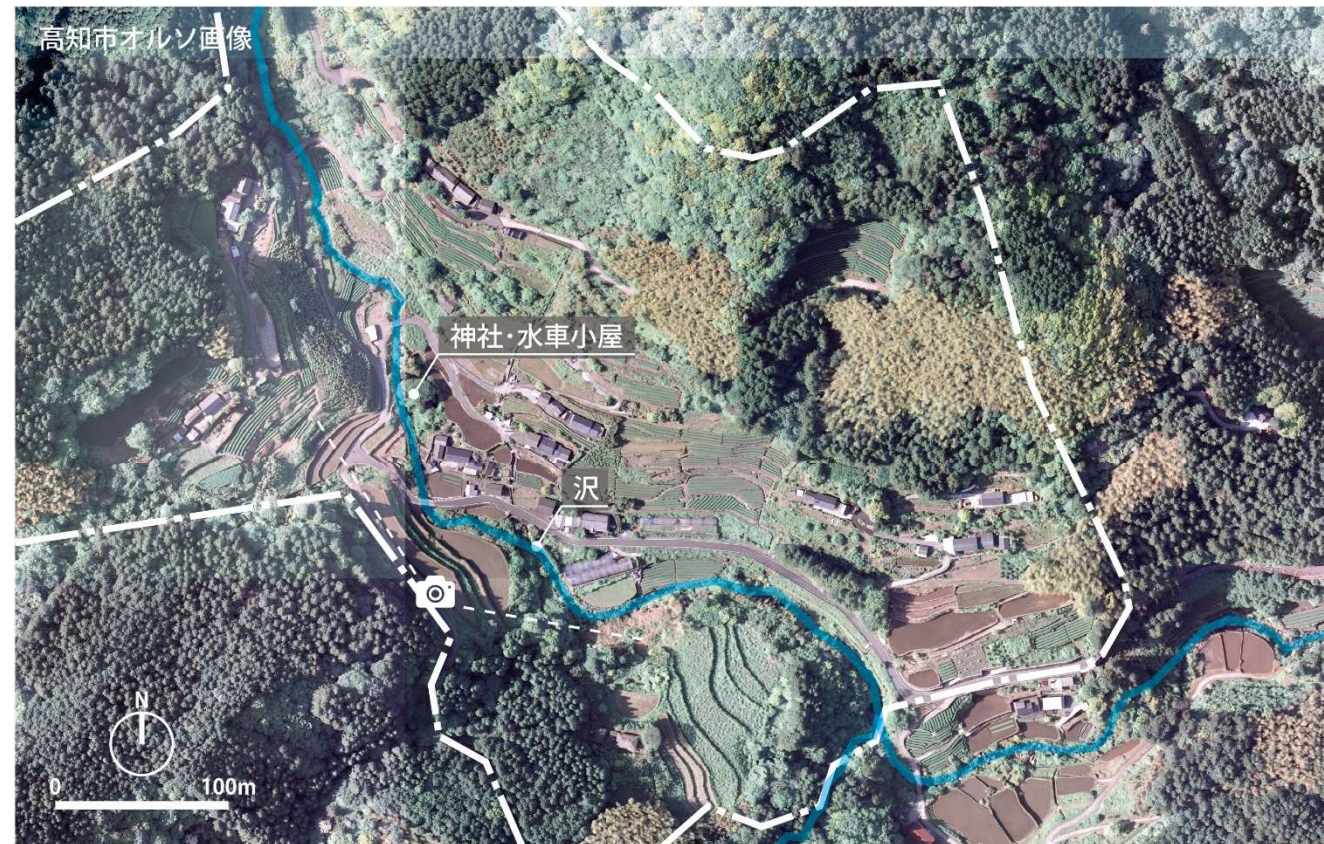
（3）キーパーソンとの協議によって明らかになった課題

- 「暮らしの場」の上にある暮らしが続けられるようにすることを考えていたが、考えていた以上に暮らしの場自体を支える「安心・安全」が揺らいでいる。
- 住民が直面している地域課題と景観形成区域の考え方・取組との間に乖離がある。

5 今後の方向性

- 「暮らしの場」の「安全・安心」とそれに支える「自然資本を活かした営み（農林業）」に向き合う取組を検討する。
- 庁内の関係部署と連携しながら地域との協議を継続する。
- 「暮らしの場」から「暮らし」がなくなることも想定したアプローチを検討する。

32 坂口地区 (2018.12.7 に行った地元キーパーソン 1 名へのヒアリング結果を踏まえて検討したもの)



沢への見通しを阻害している雑木：2018.12.7 撮影



崩れたままの棚田の石垣：2018.12.7 撮影



景観と日照を阻害している成長した植林：2018.12.7 撮影



沢を挟んだ対岸の道路から見渡した景観：2018.4.22 撮影

【候補地の範囲】

○的湊川上流の支流の山肌に拓かれた石垣の棚田および集落。当候補地は、沢を挟んだ対岸の道路から一望でき、ひとまとまりの景観として認識される集落の範囲を想定するもの。

【現状の評価】

- 坂口地区は 12 世帯の集落。うち 3 世帯は高齢者の独居世帯。営農の存続が厳しくなりつつあるなか、手入れされた美しい農村景観が保たれている。
- 一部の水田は、萱場、茶畑、四方竹畑等に置き換え、営農が続けられている。
- 過去には、鏡小学校の児童がスケッチのために訪れていたことから、元々“絵になる美しい場所”として認識されていたと推測される。
- 沢沿いに繁茂した雑木が沢への見通しを阻害。成長した植林が圧迫感と日照阻害をもたらしている。崩れた石垣も放置されている。高齢化に伴うマンパワー不足で、管理ができなくなりつつあるとのこと。
- 地元主催の交流イベントとして「桜まつり」を 2 度開催したが、継続しなかった。“働き者”ではあるものの、外部との交流を楽しむ気質ではないとのこと。
- 上記の課題や住民の気質を考慮すると、住民が営農の継続や暮らしの場の手入れに前向きな気持ちを持ち続けられることが重要であり、そのための公助が求められていると推察される。
- 雑木や植林の手入れが行われれば、景観の改善のみならず、生活環境および住民が感じている将来への閉塞感の改善効果も期待できる。
- 石垣保全のマンパワー確保については、徳島県上勝町で展開中の「石積み学校」のように、マッチングの仕組みで実現できる可能性がある。